

第4回「(仮称)平和資料館開設準備懇話会」での委員の主な意見

(概要)

■議題(1)：事業計画の策定について

●入館料・開館日・開館時間

- ・近隣施設とのバランスはあるが、戦争をテーマにした施設なので、若者からすると、高いお金を払って見ようというのは難しい。入館しやすい100円や200円ぐらいの設定が良いのでは。
- ・入館無料は良くない。無料だと展示を見る人は、値打も“タダ”だと思われる。やはり、一定の料金を示して、その中で、団体割引等を行うのが正しい。
- ・運営を考えると市外から多くの人があるような仕組みを考える必要がある。近隣にある松本清張記念館や文学館との共通チケットを作るということも意識すべき、市内にできるだけ滞在してもらえそうな仕組みを考えてほしい。
- ・イベントの時は無料にする、無料開放日を設ける等、目的に応じて無料を設定することも一つの考えである。
- ・開館日や開館時間についても、近隣施設とタイアップするなら、揃えることが必要である。

●正式名称

○「平和祈念館」・「平和記念館」

- ・「きねん」は長崎の原爆式典では「祈念」を使っている。広島では「記念」を使っている。それぞれに意味があるが、あまり変わりがないというのが率直な感じ。
- ・「祈念」の「祈」の文字には美しさがあり、惹かれる。平和を普遍的に祈っていくべきものと感じられる。
- ・「祈念」は将来的に祈っていくことを表すが、「記念」は思い出に残すことなので、施設の趣旨からすると「祈念」が良いのでは。

○「平和都市歴史館」

- ・「平和都市歴史館」は意味が広いが、都市を起点に、平和を訴えていくことはよいと思う。「平和都市記念館」というように文字を組み合わせてもいいのではないか。
- ・「都市」の響きは現代的で良い。また、「都市」は成長を感じさせる。また、「都市」は成長を感じさせる。東アジア文化都市、SDGsみらい都市等、最近では「都市」という言葉を使っている。
- ・「歴史」という言葉は人によって歴史観が異なるので、使用しない方が良いと感じる。

○「平和伝承館」

- ・幅広い世代に伝えるという意味なら「伝承」がいい。
- ・「伝承」は施設のコンセプトを表していると思うが、最近では、震災関係の施設に使われていると感じている。

○「平和都市ミュージアム」・「平和のまちミュージアム」 ※提案のみ委員意見無し

- ・博物館、美術館、記念館を表す言葉で「ミュージアム」がある。市内には行政以外にも、TOTOミュージアム、ゼンリンミュージアムがある。行政では、漫画ミュージアムがあり、「ミュージアム」という言葉は市民に近く、分かりやすい。
- ・漢字とカタカナを組み合わせると名称は長くなるが、それぞれ独立した意味を持つ。例えば、「平和都市ミュージアム」で多くのことが含まれる。
- ・未来に対して、学んでいく方向性も必要である。子供たちに分かるように「都市」を「まち」に変えて、「平和のまちミュージアム」ではどうか。

(仮称) 平和資料館について

1 施設コンセプト

- 市民の戦争体験や当時の暮らしを物語る資料などを保存・継承していく施設
- 戦争の悲惨さや平和の大切さ、命の尊さについて考える機会を提供する施設

2 施設概要

- (1) 建設場所 小倉北区域内4番（勝山公園中央図書館北側駐車場内）
- (2) 延床面積 約940㎡（屋外床面積を含めると約990㎡）
- (3) 諸室構成 展示室、企画展示室、収蔵庫、多目的室、事務室 等
- (4) 構造 鉄骨造（一部、鉄筋コンクリート造）
- (5) 工事費 約9億円（展示製作を含む）
- (6) 開館時期 令和4年度（令和2年度工事着工）

【参考：施設全体図】



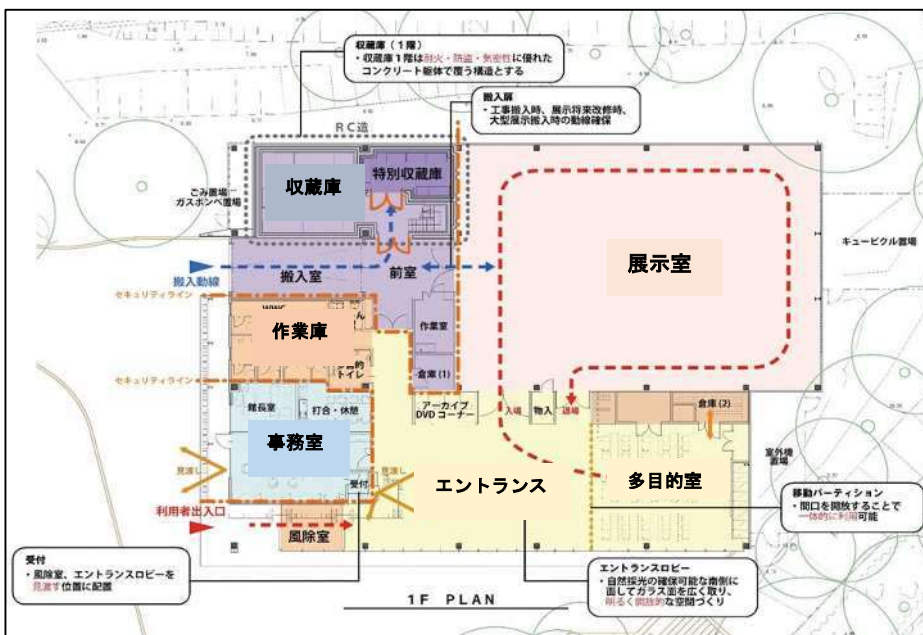
【施設整備の基本方針】

- 周辺景観に調和した歴史・文化を感じる空間の創造に配慮した施設づくり
- 地球環境に配慮した環境にやさしい施設づくり
- 必要な機能を有するとともに管理・運営のしやすい施設づくり

【施設平面図】

- 展示室・企画展示室
- 収蔵庫・倉庫
（一部2階に収蔵庫あり）
- 多目的室
- エントランスロビー
- 事務室
- アーカイブコーナー 等

※施設利用の効率化等の視点から、近隣のコミュニティ施設にある会議室・研修室は設置していない。



3 展示の基本的な考え

(1) 展示テーマ

戦争により大きく変わった北九州の人々の暮らしや戦後、復興を果たした“まち”の様子等

(2) 展示内容

- 来館者が体験・体感でき、映像・音響設備を活用した効果的な展示
- 事実に基づいた正確でわかりやすい展示
- 子供たちの目線に立った展示

(3) 展示ストーリー・主な展示設備等



参考：展示室レイアウト



■プロローグ（導入展示）

- ・小倉陸軍造兵廠の位置や規模を表す大型グラフィック及び原爆投下命令書の展示。
- ・原子爆弾と小倉の関りを知ることで、来館者が資料館設置の意義を認識し、展示鑑賞への期待感を高める。



■戦前の北九州

- ・五市の特色や活気のあった市民の暮らし等を紹介するグラフィック展示。
- ・小倉陸軍造兵廠の全貌をリアルな立体感で再現するプロジェクションマッピング。
- ・戦前の北九州の繁栄と小倉と軍の関りを知る。



■戦争と市民の暮らし

- ・当時の暮らし振りが分かる再現展示。
- ・銃後を守った市民の暮らし、子どもたちの生活等が分かる実物資料の展示。
- ・日々の暮らしが戦争と隣り合わせにあったことを実感する。



■運命の昭和20年8月8日・9日

- ・映像や音響を活用した360度シアター。
- ・8月8日の八幡の空襲、翌9日の原爆を搭載した爆撃機が小倉上空を飛来した後、長崎に向かった出来事を追体験する。

■戦後の復興

- ・旧5市が復興の歩みを進める姿を伝える映像モニター。
- ・再び発展し、北九州市が誕生する“まち”の移り変わりを知る。

■その他

- ・小倉陸軍造兵廠で製造されていた風船爆弾等の模型展示
- ・北九州の“いま”・“これから”を紹介するモニター 等

